

WIN^{CONCORD} コンコード NEWSLETTER

明日があるさ

和歌山大学教育学部教授

柏原 卓

WINコンコードの皆様には日頃留学生たちがお世話になり、たいへんありがたく感謝しています。私も国語学の授業やゼミで、あるいは留学生委員として留学生と接したりします。しかし、留学生が学園生活に適応できるように大学人（教員、職員、学生）にはできない部分で自発的な支援を続けてくださっている皆様は、留学生にとって親しみと感謝を感じる存在だと言えましょう。

さて近ごろ坂本九の「明日があるさ」がリバイバルや替え歌で流行しているようです。現在私は井原西鶴の没年齢52歳を越えつつありますが、中学生か高校生だった頃に、この歌がNHKテレビの「夢で逢いましょう」の中で歌われていた記憶があります。「いつもの駅でいつも会うセーラー服のお下げ髪」の女の子に声をかける勇気が出ない男の子の気持ちを歌った歌でした。「上を向いて歩こう」とともにみずみずしくて希望のある良い歌で、できれば外国人にも好きになってもらえたらうれしいなと思います。

なぜ「明日があるさ」を話題にするかというと、現在の日本には問題が多いから「明日」を信じたいのです。長い不況、空前の失業率、老後不安、少子化、いじめ、少年犯罪などなど、暗く生きづらい感じが覆っています。日本人だけでなく留学生だって生きづらいに違いありません。

さらに問題なのは、元気のない日本人に誇りを持たせ

るつもりか、伝統尊重を名分にして首相の「天皇中心の神の国」発言や「大東亜戦争」を評価する動きが目立つことです。戦前育ちの保守政治家だけでなく一部の若者にも影響しているそうです。しかし未来志向の国際化を進めるためには過去を冷静に反省し、どの国の人とも対等平等につきあう精神が必要でしょう。日本だけが尊大に一人勝ちを目論みではいけません。また一超大国に過度に依存して自主外交を展開できないのも困ったことです。（日本人が尊重し誇るべき伝統は、庶民の創意工夫や勤勉の伝統と、庶民文化を含めた文化伝統でしょう。）

私一人がこう言ったところで、政治状況にすぐ影響が出るわけではありません。しかし世界中に植民地が多数有り戦争も多かった20世紀も終わり、今は21世紀です。対等平等な真の友好交流による国際化の世紀にしたいものです。その中で日本の経済や生活も良くなるよう、日本人が知恵をしぼり伝統の勤勉さも発揮して努力すべき時でしょう。私には「明日があるさ」という歌がその応援歌に聞こえるのです。「明日」へ、私も大学での留学生と日本人学生の交流促進、担当している外国語（韓国朝鮮語）授業などを通じて、片隅で微力ながら国際交流に努力していきます。

地道なボランティア活動を身上とするWINの会報巻頭にはなじまない部分があったかも知れませんが、皆様の善意が生きる環境を守る上で、完全に目をふさぐこともできないので書かせていただきました。

ハンガリー

キング & モニカ

(ハンガリー)

皆さんはじめまして。私達は、ハンガリーから来た留学生、キングとモニカと申します。今から私達の美しい国を紹介させていただきます。

ハンガリーはカルパト盆地に位置している小さな国で、面積は92,000k m²です。これは日本の面積の4分の1です。人口は東京の人口と一緒で、約1千万人です。ハンガリーは北からスロバキアに、東からウクライナとルーマニアに、南からユーゴスラビア、クロアチア、スロベニアに、西からオーストリアに囲まれている。私達の母国語は、ハンガリー語です。ハンガリー語はフィン・ウゴル系の言語です。一番似ている言葉はフィンランド語です。

ハンガリー人はロシアのウラル山脈の東の山のふもとからカルパト盆地へ来て、896年に定住した。当時のハンガリー人は七つの氏に分かれていた。宗教はシャーマニズムで、シャーマンは不思議な勢力を持っていたと言われている。でもヨーロッパへ来て、もう周りの国々は全部キリスト教を信仰していた。このため、ここヨーロッパの真中に生き残るためにキリスト教に改宗するほかはなかった。こうやって、一番大きい氏頭にローマ法王は冠を送ってくれた。1000年1月1日に戴冠式が行われた。彼はイシュトバンという私達の最初の王様として強く尊敬されている。イシュトバン王は死亡した後、聖徒の列に加えられていた。15世紀までハンガリー国家の王位にハンガリー人の王様が就いた。

16世紀からハンガリーはトルコ軍隊によって占領された。その後は150年間戦争が続いた。今もその時代の遺跡が残っている。例えば温泉もそういう遺跡だ。トルコ時代は温泉文化の始まりとしてもみられている。ハンガリーを訪問したら、是非温泉に入ってみてと勧める。

17世紀の後半になるとハプスブルグ帝国の援助でトルコは逃げだした。その後ハンガリーはハプスブルグ帝国の影響を受けて、オーストリアと君主政体となって、ハプスブルグ王に統治されるようになった。19世紀ハンガリーもその頃ヨーロッパの革命の思想を受けて、ハプスブルグ帝国から独立したい気持ちが強くなって、1848年から1849年まで自由のために戦った。ハプスブルグ帝国はロシアと協力してハンガリーの革命を鎮圧した。そしてハプスブルグ帝国は続いてハンガリーを支配した。第一次世界大戦後ハンガリーは独立したが、その戦争で国家の面積の3分の2を無くした。第二次世界大戦の終わってから私達は旧ソ連の政治地域の影響を受けた。1989年戦争なしに国家体制は共和国に変わった。

いままで特に国の歴史について述べましたが、実際の生活は本当に楽しいです。ハンガリーはワインと料理と民族の伝統と祭りと音楽が有名で、景色もきれいだし、地域によっていろいろな城、教会を訪ねられる。夏の湖は賑やか、冬が来ると皆クリスマスを待っている。雪が降ったら子供達は喜んでソリを走らせる。春は花が咲いています。桃の花と秋の紅葉も一度ぜひ見てほしいと思っています。

マレーシア国とイスラム教

ハムザ ファフリ イスマイル

(マレーシア)

マレーシアの民族は5割以上がマレー系である。他は中国系、インド系である。5割以上のマレー系の人々の家教はだいたいイスラム教である。もちろん、マレーシアではイスラムを信仰するのはマレー系だけでなくほかの民族系もいる。でも、今日はマレー系の人々の習慣とイスラム教のことを紹介したいと思う。私はマレーシア人の代表としてイスラム教人の代表としてもできるだけマレー系の人とイスラム教のことを日本人と他の人にも理解してほしいと思う。

まず、イスラム教はどうやってマレーシアに来たのか説明したいと思う。15世紀の最初ごろにイスラム教のアラビア人がマラッカというところに商売のためにやってきた。マラッカはマレーシアの西半島にある。その頃マラッカは、とても商売のためにはいいところであった。いろいろな国の人がマラッカに商売にやって来た。その時、パラメスワラというマラッカの王様はアラビア人のいい性格とイスラム宗教のことが気に入ってイスラム教に帰依した。王様がイスラム教に入った後国民もみんなイスラム教に入るようになった。そして、マラッカはイスラム国として有名になった。そして、マラヤ（マレーシア）全体がイスラム教に帰依した。これは一番有名な、どうイスラム教がマラヤに入ったのかという説である。他の説もあるけど上の説が一番有力である。

イスラム教がどうやってマレーシアに入ったのかわかっていたただけかなあ。その時からずっとマレー人はイスラム教に基づいた生活している。朝、目を覚ましてから夜ベッドに寝るまで、マレー人はイスラム教のやり方でしている。イスラム教が来る前にマレー人は自分の習慣を持っていた。でもイスラム教に入ってからイスラム教に逆らう習慣は日常生活から捨てた。もとのマレー人の習慣がイスラム教に逆らうのはそんなに多くない。たとえばマレー人の服装とか食べ物とかは、イスラム教に逆らっていないから、今もその伝統を

まだ続けている。マレー人の食習慣は右の手で座って丁寧に食べる。マレー人の男の伝統的な服は長いズボンと長そでである。この食べ方と服装はイスラムのやり方と違ってないから、今でもその伝統を守り続けている。イスラム教は男の人は自分のへそからひざまでの間は他の人に見せることはいけないことである。女の人の場合は顔と手元だけ人に見せることができる。これは家族に見せるのはかまいません。

イスラム教は豚を食べないのは汚い動物であるからじゃなくてイスラム教の聖本（アルコラン）に豚を食べないでということが書いてあるから。このアルコランは全部が唯一の神様（アッラー）の言葉である。ですから全部が理由を聞かずに信じて生活している。イスラム人はアルコランのことが正しい生活のことである信じている。アルコランを理解するのは一般の人にとって難しいことである。そのため神様（アッラー）はムハンマドという預言者を送ってモデルとしてアルコランのことを実現して他の人が簡単に見えてやるようにした。ですから人々は、イスラム教ではムハンマドの生活の仕方が一番いいのであるから、できるだけ自分の生活をムハンマドに近づけるようにしている。でもやはり人間は人間であるからイスラム教をちゃんと守って生きている人もいるし、ムハンマドの生活と遠く離れて生活している人もいる。もし問題とか疑問などがあつたら、私に直接たずねてください。



雲南省と照葉樹林文化

鄧 洪 麗

(中 国)

私の故郷は中国の雲南省、昆明にある。日本に来て、さほど向こうと違うとは思ってなかった。稲作文化圏のなか、食べ物や、狩猟の儀礼や少数民族の高床式住居等共通点などがあるので、かつて、日本人のルーツ探しのなかで、「雲南からの説」を耳にしたことがある。今回、雲南省の特徴及び日本人の提唱した雲南・照葉樹林文化について皆さんに紹介したいと思う。

1、雲南省概況

総面積は、日本とほぼ同じで、39.4 万平方 km。
総人口は 4144 (98 年末) 万人で、少数民族の占める割合は約 3 分の 1 である。
省都昆明は、別名「春城」と呼ばれるのも、気候の良さからきた名前で、年平均気温が 14.5 度 C で、中国で夏と冬の温度差がもっとも少ないところである。

特徴1 少数民族地域

民族が集中している地域であり、現在、雲南省の省長は少数民族の幹部が任命されている。漢民族以外、少数民族 25 が住んでいる。

特徴2 長い国境線

雲南省とベトナム、ミャンマー、ラオス、タイとの国境線の長さは 4,000 キロに及んでいる。ベトナムを含むインドシナ半島の情勢は雲南省の経済発展、及び国境貿易に影響を与えている。

特徴3 有名な観光地と豊富な動、植、鉱産物資源

亜熱帯地域に位置し、雲南省の石林や、少数民族生活地域、中国で有名な観光地である。また、動物、植物、有色金属を含む鉱産物資源が豊富である。

2、照葉樹林文化

照葉樹林文化とは 1970 年代後半頃、京都学派中尾佐助、上山春平らによって提唱し、つまり、照葉樹林文化の原初的複合は、狩猟、漁労、自然物の採集、焼畑耕作等で、日本では縄文中期に成立したと言われ、弥生時代に入ると、稲作が日本に伝播したが、これを中心に

綿花・茶・柑 類等の栽培、養蚕、鵜飼、漆器・竹細工の製造、麴菌を用いた酒・味噌の醸造、豆腐、納豆の加工を伴っている。このような複合要素は、弥生時代から室町時代にかけて、華中から揚子江アークで順次日本に伝えられたそうである。

この照葉樹林文化を、中国雲南地方からヒマラヤにかけての東亜半月弧に求める京都派の学説だが、羽衣伝説や歌垣等も雲南の民俗にも見られ、日本文化の深層は照葉樹林農耕文化である。こうした日本人の伝統的な農耕社会に生まれた多神教、山や木等自然物を崇拝するアニミズムの形態、神道、神式等に結びつく今日日本人の精神構造の究明や日本照葉樹林文化のルーツの辿りに、雲南省と文化共通の点が多く見られる。

典型的な雲南の照葉樹林文化

* 水田と焼畑における稲作

1982 年以来、各地で相次ぎ野生稲が発見され、水陸兼用で、水稻を二期作（昆明盆地では水稻と小麦の二毛作が半分を超え）で栽培が普及しており、しかも南の方で赤米、黄米、黒米、紫米が昔からつくっている。

* お茶栽培のルーツ

樹齢 1000 年を超える野生の茶樹雲南雲南省内数多く自生している。お茶の原産地とも言われている。

* 養蚕と鵜飼

小さい頃よく見られたが、照葉樹林文化複合の重要な要素として、初めて分かった。

* 南部の食文化—貯蔵、発酵食品多い

南部の高温多湿の風土に対応して貯蔵性を重視した食品が多い。魚介類に塩を加えて発酵させると塩辛になる。魚醤等は調味料に用いられる。発酵させたご飯と塩で漬けた魚でつくる馴れ寿司も、保存食品の一つである。

* 校倉造りと高床式住宅

北部麗江の民家住宅式ですが、冬の寒さは厳し、火鉢が使われている。

焼畑耕作を中心とする雲南の伝統的照葉樹林文化は、その北部において、森林の破壊とともに、殆ど見られ

なく、南部においても焼畑の常畑化が急速に進んでおり、こうした伝統的な農耕文化もだんだん解体するだろう。

最後に伝統守りと発展がどうも調和しにくい存在で、経済優先の今の中国は、昔のままでよいと思う人は多少少なくなっているだろう。環境保護の大事さは将来の生存に関わることは言うまでもない。和歌山が豊かな自然に恵まれ、いつも羨ましいと思う。私の故郷から大量な材木を日本向け輸出している。スーパーで包装用の木の箱、板等を見て、どうも買う気にはなれない。向こうでは毎年のように大洪水が氾濫し、少なくなる森林、そして伝統の文化、生活のことを考えると、ますます不安に感じる一方である。



ルーマニア

ダニエル モルドバン

(ルーマニア)

私は、1999年10月ルーマニアから来ました。現在、和歌山大学システム工学部院生として、勉強しています。昨年9月に結婚し、今は妻のアドリアナと二人で暮らしています。

ルーマニアは、ヨーロッパの南東部に位置し、東においてルーマニアの隣国はモルドバです。ウクライナは北に、ハンガリーは西、南西においてセルビア（旧ユーゴスラビア）、南にブルガリアそして東南には黒海があります。ルーマニアの公式の言語は、ルーマニア語で起源はラテン語です。2000年前にローマ帝国はダチアを征服しました。その後ローマ人とダチアの人々は、平和に暮らしました。これがルーマニア言語の起源です。そして、ルーマニア語がイタリア語、フランス語、スペイン語等と類似している理由です。

ルーマニアは、三つのメインエリアで分割されています。トランシルバニア、ムンテニアとモルドバです。私達は、トランシルバニアから来ました。私達の生まれ故郷の町は、トルゴモレストで、この町の人口は、

20万人です。ルーマニアの首都ブカレストの人口は、200万人で、ルーマニア全土の人口は、2300万人です。

もし、皆さんが私の国ルーマニアに来るなら、交通手段は飛行機が最も良いでしょう。しかし、ブカレストには、ダイレクトフライトがありません。アジアからのダイレクトフライトは、北京からだけです。けれども、ブカレストはヨーロッパの主要都市、パリ、ロンドン、チューリッヒ、ウィーン経由になります。だから、沢山の人が旅行に来ます。

ルーマニアの最も有名な観光地は、次の場所です。モルダヴィアには、500年前の古い教会や修道院があり、それらの外壁は、色彩豊かに描かれており、ユネスコ世界遺産にもなっています。トランシルバニアには、ゴシック形式の城や宮殿があります。それから、モンテニアは、ドラキュラの生まれた町として有名であり、彼は、15世紀頃、モンテニアの国王で、トルコと戦いました。

ところで、ルーマニアのお金の単位は、レイといいますが、日本の円と比較すると、10万レイは400円ぐらいで、普通の人の給料は、500万レイ～600万レイ（2万円～3万円）です。ルーマニアの宗教は、キリスト教のオーソドックスです。そして、我々ルーマニア人はルーマニア語以外に、英語、ドイツ語、フランス語を話します。どうぞ皆さん、ルーマニアへ来て下さい。



ミャンマーのお正月 (水かけ祭りの一日)

キン マ ソー

(ミャンマー)

ミャンマーでも日本みたいにお祭りがたくさんあります。その中で四月の水かけ祭りが、一番有名で賑やかです。

4月にはミャンマーのお正月です。4月の満月日にミャンマーの人たちは早く起きて朝5時からお寺で蝋燭や花や水を供えてお祈りをします。家族や友達とグループで行ってお祈りをします。それから、家でミャンマー語でモロイポーと言ったお正月の食べ物を作ります。モロイポーはもち米で作っただんごです。大きい鍋にお湯を沸かして、もち米の中に甘い物を入れて手で丸くしただんごを入れ、お湯の上に上がってきたら、出来上がりです。時々若者達はだんごの中にチリを入れて、ジョークをします。これを食べた人は、辛くてびっくりします。

町の賑やかな通りにあるステージの上で、女性達がダンスをしている間、若者達はステージの前で水をかけあいます。水をかけながら、元気であけましておめでとうございますと言います。そして、私達の作ったモロイポーを持って行って皆に食べてもらいます。夕方から夜にかけて、いろいろな物を持って、親戚中で、お年寄りや、祖父母、親、先生方などとお祈りをします。

水でかけあうのは、去年の古い事は全部洗い流して、いい年が来るという意味があります。お寺では、自分の生まれた日によって、仏教の彫像に水を差し上げながら「これから悪い事がなく、新年を迎え幸せな生活になるように」とお祈りをします。

ミャンマーのお正月の水かけ祭りの日は、皆仕事を休んで、新年を迎え楽しいです。

大学祭『留学生の店』

ナムハイ オトゴンジャラガル

(モンゴル)

私はモンゴルから来ましたナムハイと申します。日本に留学してから一年半になって、いよいよ帰国時期が近づいてまいりました。

去年11月11日～12日に行われた大学祭は、和歌山でのいろいろな楽しい出来事の一つでした。最初は何もわからなくて、日本人は羊肉を食べるかな、それに私自身は料理があまり上手ではないので心配していました。取りに行く時、店員さんが「そんなたくさんの肉でどんな料理を作るんですか」ってびっくりしました。調理する皆さんと一緒に看板を作って、WINメンバーさんのお家で一度作ってみました。翌朝は大学祭が始まって、人が多く、車がこんでいて賑やかになったから、私はドキドキしました。それぞれ自分の国の料理を作りました。ベトナムのロアンさんは春巻とチキンのおかゆ、マレーシアの皆さんはロティデ、アガルアガルデザート、モンゴルの私は焼羊、じゃがいものマッシュ、ハンガリーのモーニ、キングさんとルーマニアのダニエル、アドリアナさんはチョコ、ジャム、シナモンパイを作りました。

もちろん、最初は緊張していましたが、だんだんと心が落ち着きその雰囲気になじんできました。「留学生の店」の食べ物は、非常に値段が安く人気があり、たくさんの方が来てくれて3時ごろなくなりました。みなさんは、楽しくこの大学祭でがんばりました。

和歌山に来てから、この短い一年間、花見をはじめ、花火大会、サマーキャンプ、スキー旅行などいろいろな楽しい事して下さったWINの皆様本当に世話になりました。モンゴルにこられる機会がありましたら、ぜひ私の町に会いに来て下さい。さようなら。

日本の最初で最後の夏休み

ダルニー メッタ

(タイ)

私は日本に来る前、専門に3年間日本語を勉強していた。日本の先生から日本のことをいろいろ聞きました。特に日本の夏休みのことについて教えてくれた。花火とか、キャンプとか面白そうなことばかりだった。もし私は日本へ行けば、その経験をしたいと思っていた。だから、日本に来てから、ずっと夏休みを待っていた。

日本は夏休みになると、景色が変わり始めて、食べ物や服なども変わった。特にたくさんの祭りがあって、花火大会もあります。私は和歌山の花火大会を見に行った。花火は1時間くらいあって、驚いた。日本の花火はとても大きくてきれいだと思う。和歌山の花火大会を見に行った時、若者達やたくさん家族そろって花火をしていた。そして、若者達も浴衣を着ていて珍しいと思ひながら、いいなあと思った。

そして、夏休みの時一番面白かった事は、有田でキャンプしたことだった。今回は初めて日本の田舎で泊まった。有田に行く途中、緑山が並んでいた横側が見えて、気持ち良かった。タイの自然と日本とは全然違う。日本の山は松の木ばかりで、緑がたくさん見えて、タイは暑い国だから、植物を植えてきたタイの山々はそんなに緑色に見えないと思うけど。

泊まる所に到着した後、私達は外に出て、遊んだ。泊まる所の回りは田んぼばかりで、すごくきれいだった。みんなと一緒に泳いだり、釣ったりして、楽しかった。着いた日の夜バーベキューをして花火をやった後、山の中に星を見に行った。最初はそんなにきれいに見られないかなと思ったけど、車から降りた時、空を見上げた瞬間すごくびっくりって感じがした。その夜の空は星が数え切れないほど天の川みたいにかくさんあってきれいだった。こんなきれいな星を見るのは初めてだった。そして、流れ星を3回も見ても願い事をしようと思ったけど、間に合わなくて残念だった。

次の朝、朝食をいただいた後に、ほとんどの男の子は泳ぎに行ったらしくて、私達はダムで釣りをすることにした。ダムに行っている道の眺めを見ながら、田舎に住んでいる人たちの生活と自然がだんだん分かるようになった。すごく嬉しかった。私は釣りがそんなに上手ではないけど、小さい魚ぐらいいは釣れた。昼食は中谷さんの作った手作りシーフードカレーだった。どうもありがとうございました。

キャンプに行った時に、いろいろな経験が出来た。例えば、釣りとか、友達と一緒に遊ぶことなどです。そして、新しい友達もいっぱい出来た。私はキャンプに参加して、良かったと思った。

夏休みはいろいろな経験が出来て、面白いことをやって、良かったと思う。しかし、夏休みが終わると私は帰国しなければならない。ただ、この一年間のことを私は、いつまでも忘れないと思う。

私のいい思い出を作ってくれたのはWINのみなさんと優しい友達だった。みなさん、本当にどうもありがとうございました。タイに帰っても、一生忘れない。



日本で過ごしたお正月

陳 愛 国

(中 国)

「12月28日に忘年会をやるけど、来ない？」と年末に日本人の友達から電話での誘いがありました。「忘年会？！生まれてまだ一回も参加したことないけど、興味あるから行くよ」と答えました。そのとき、忘年会は日本の独特なことだと私は思っていました。中国にも年末になると会社の同僚達が「年夜饭」という形で、集まるのですが、雰囲気も忘年会と似ているから、それが日本の忘年会に当たるかなと感じました。しかし、ゼミの先生と学生と一緒に忘年会をするのに、びっくりしました。それは、中国にはないのではないかと思います。

もちろん、中国にもお正月があります。ただ、新暦ではなく旧暦の1月1日です。中国の学生にとって、お正月の休みを迎える前に10日間ぐらい続く、期末試験に参加しなければならないので、試験後すごく疲れて、一刻も早く自家へ帰りたい気持ちです。(中国の大学は、全寮制です。)だから、学校に残っていて、学生同士や先生などと、忘年会する余裕も習慣もないわけです。

今年は日本にいたので、年末に試験無しで忘年会、新年会などに参加して、日本でのお正月の気分を味わっていました。

忘年会には、人間関係を潤滑にする働きがあるが、年賀状は、忘年会よりも日本人の心理と文化を表すのではないかと思います。50枚、100枚、200枚…数多くの年賀状を書くのは、日本人の習慣になっています。メールのやりとりが流行ってきたので「年賀状？書かないよ。だって、21世紀だもん」と反町隆史のそのコマーシャルが印象的でしたが、しかし、年末、郵便局でポストにたくさんの年賀状を入れようとする人波が私にとって、もっと印象深かったです。時代が変わっても、年賀状は消えないのではないのでしょうか。便利な電子辞書があっても、伝統的な紙の辞書を愛用する人がいると同じように、年賀状のやりとりを楽し

んでいる人もきっといるでしょう。それにしても、外国人から見ると、それぐらいたくさんの年賀状を書くのは大変な仕事で少しめんどくさいことなのではないだろうかと思われます。

忘年会、年賀状についての習慣は、中国と違いますが、日本のお正月は、中国と共通している所もあります。年末の大掃除がその一つのことでしょう。家族全員で部屋のすみからすみまで、きれいにして新年を迎えようとする気持ちが一緒だからでしょう。年の初めに来訪のお客さんもあるので、お客さんに新年早々のいい気持ちを与える心理が大掃除の存在する理由の一つかもしれません。年末年始が忙しいとか、そういう声がよく耳にするが、忘年会、新年会以外に大掃除や年末の買い物などが、その忙しさを増やしたでしょう。

大晦日の紅白歌合戦、年越しそばと1日の初詣は、日本人にとってもう平気になっているかもしれませんが、外国人である私にとっては、すべて新しさの感じられることです。中国にいたときは、毎年の大晦日に家族が揃って年夜饭を食べてから、爆竹、花火の音を楽しみながら、テレビを見るのですが、日本のお正月は、静かな雰囲気でした。お正月の賑やかさは、どこに行ってしまったでしょう。それは、お寺と神社に表れています。参拝したり、おみくじを引いたりする人の群れがその証拠になっています。紀三井寺へ行く前に着物の姿を期待していましたが、ほとんどの人が普段着で、行っているのが少しかかりました。しかし、初詣での独特な風景は、いい思い出になりました。

紀三井寺で足を止めて、除夜の鐘を聞きながら参拝すること、見るだけでおいしそうな、おせち料理、特別なテレビ番組、親しい感じの忘年会…すべて忘れられなくなって、私の人生の中に貴重な体験になりました。



大切な時間

李 瑜

(中国)

帰国する日が近づいてきた。一年間の留学生活はあっという間に経ってしまっていて、この頃になると、よくこの一年間に自分が歩いてきた道を顧みるようになってきた。初めての日本留学生活には、もちろん楽しさもあった。辛さもあった。今まで私の心に一番印象深く残っているのは、やはりスキー旅行のことであった。

はじめにスキー旅行に行けると聞いた時、とても興奮した。私の故郷でも冬は寒いけど、スキーするのは珍しくて、考えもよらないことであるからだ。でも、やはり一度もやったことがないし、子供の時、氷の上で遊んでけがをした経験があったから、緊張感と恐怖感もあいついできた。「うまくいくかな？」とずっと心細く考えていた。

やっとスキーする日が来た。温泉のおかげで、ゆっくり寝たからだろうが、その日はすごく元気であった。スキーの服を着て、なんとも言えない程やる気満々になった。スキーのレッスンに参加して実際に滑ってみたら、やはり難しいと思った。体のバランスがよく取れなくて緊張し続けて、後ろへ倒れて何回も何回も転んだ。隣の友達を見たら、みんなうまく滑っていた。「がんばろう！がんばろう！負けないよ！」と自分を励ました。

担当の先生はとても優しく教えてくれたが、なんだか足の姿勢がキープできなくて、揺れていた。私もだんだんいらいら焦ってきた。先生は「よし、魔法の道具を使おう！」と言った。私は「いいえ、使いたくない、自分の力で練習します。」と先生に言った。「一回使ったら、すぐ足の姿勢が分かるから。一回だけ、いい？」と先生は親切に言ったから、私は黙って頷いた。

先生は本当にただ一回だけ、私にその魔法の道具を使わせた。その後だんだん滑れるようになった。次はち

よっと広いところで斜面の練習が始まった。そこまでやると、もう怖いとは思わなかったが、やはりめっちゃくちゃに他の人とぶつかって、ちょっと恥ずかしかった。特に小さい子供に遭った場合は「この自分がヤバイな」と思っていた。でも恥ずかしいからこそ、もっと練習しなければならないという考えを持って、重いスキー板を背負ってまた坂を登り始めた。

その間スキースクールの先生達、中谷さん、小林先生はずっと私達を励ましてくれた。「今度よくできたね。」「がんばって。」「上手になった！」など、一つ一つの短い話であるけど、なによりも私達の心を暖めた。みんなの顔にも笑顔が現れた。

「はい、どうぞ」と先生が私の目の前に手を伸ばして、一つの飴をくれた。「これはがんばったから、賞品だよ。」と先生は微笑んで言った。私はその飴を口に入れて、その特別な甘さを味わいながら、先生の後姿を見つめていた。「かっこいいな！」と思った。

翌日、みんなはいきなりリフトに乗って、山のちょっと上から滑ろうとチャレンジし始めた。でも、私はまだ上手ではないが、とりあえず思い切ってやってみようと思った。けれども、実際にトライした後、大冒険だと分かった。途中で4、5回も転んだのはまだまだで、転んだ後起きられなく、そのまま滑ってしまったのは忘れられない体験であった。でも、やっと無事に山の裾まで戻ってきた。

二日間のスキー旅行は終わった。どんな感想だったのかと聞かれたら、ただの楽しいとか、苦しいとか、体の痛さとか、一言では伝えられないことであった。私にとって、いつも生き生きと、一つ一つ頭に浮かぶのは、仲良しの友達、親切な先生達、いつも助けてくれたWINコンコードのメンバー達、そしてがんばった自分のことである。それは一つ一つの宝物のような思い出になって、私の留学生活にいつも輝きながら、ずっと私に勇気と激励を与えている。

WIN コンコードの思い出

野島アンドレ義明

(ブラジル)

1998 年秋、大阪での半年間にわたる日本語研修を終えた私の、和歌山における新生活がスタートした。秋とはいえ、まだまだ残暑が厳しく、「噂通り、暖かいところだな」と思ったことを、今、昨日のこのように、懐かしく思い出す。あれから、もう2年半が過ぎ去ったとは、信じられないというのが、実感である。

とにかく、私のこの留学生活は、WIN に始まり、WIN に終わった、と言う感じ…

他の人もしみじみ語っているが、本当にお世話になった。楽しくもあり、大変でもあった留学生活が終わろうとしている今、思い出の日々を振り返ってみようと思う。

あれは、忘れもしない、語学研修も大詰めを迎えた夏の日、私は、和歌山大学で自分の専攻分野である経営学を学ぶため、現地の下見と教授への挨拶を兼ねて、和歌山にやってきた。その時に、出会ったのが、WIN の中谷さんだった。和歌山にきた留学生の生活支援をしているとのこと。何も知らない私のところに、わざわざ来てくれたのには、本当に驚いた。しかも、生活物資の貸し出しもしてくれるという…いうまでもなく、ブラジルからやってきた私は、家具1つ持っていなかったの、なんとも有り難い話だった。その後も、他のブラジル人留学生の紹介、アパートの斡旋などなど、至れり尽くせりという感じで、面倒を見てくれた。お蔭で、知人もいない土地に来るというのに、何の不安も覚えずに、新生活は始まった。

その年は、他のホスト・ファミリーのうちに泊りがけで招待してもらったり、細々した生活用品を用意してもらったりした。年末には、忘年会もあった。ただし、私はカラオケが苦手なので、欠席してしまったが…

翌年は、花見、総会とパーティー、企業見学会に夏のキャンプなどなど…たくさんありすぎて、全部思い出せないほどだった。特に、キャンプは、川泳ぎやバー

ベキューもあり、ブラジルの田舎育ちである私には、懐かしさとともに、いい思い出になった。ブラジルでは、砂浜で、バレーボールをして、肉の固まりを焼くシュラスコを食べ、ビールを飲むのが、海岸線に住む人々の、由緒正しい(?)休暇の過ごし方なのだ。いい年したおじさんが趣味はと聞かれて「Praia(海水浴)」と答えたりする。もちろん、泳ぐのではなく、砂浜に寝そべって、ビールを一杯…である。

色々なイベントがあったが、私にとって、一番良かったのは、何といても、スキー旅行だった。初めの年は、ちょうど、都合が悪くて(子どもが生まれた)行けなかった。暑い南米出身なので、生まれて初めての経験だったが、予想していたより、ずっと面白かった。寒いのはあまり好きではないのだが、寒さを忘れるほど、夢中になった。どれくらい熱中したかという、殆ど指導も受けずに、初日に上級者コースに無理矢理行ってしまうほど…もちろん、転びまくって、コースをぼこぼこにしてきたが…行くまでは「寒いだろうなあ」などとぶつぶつ言っていたのに、帰ってしばらくの間は、スキーの話しかしなかったの、家族に呆れられた。企業見学も楽しく、ホテルもいいところだったので、後で家族に羨ましがられたりもした。

今年のスキー旅行は、2泊3日で、スキー場も大きく、色々なコースがあり、2日間滑り放題の上、WIN の人たちに指導を受けながら滑れたので、上達もできたし、すごく楽しかった。

以上、楽しかったことを、順に並べてみたが、これだけのイベントを楽しむことができたのも、ひとえにWIN の皆さんのお蔭だと思う。来た当時は分からなかったが、日本という国はいいところだが、本当に物価が高い。本来なら、留学生の身分では、とてもこんな楽しみは味わえなかった。こうした負担も快く引き受けていただき、さらには、留学終了後の私の進路まで、本当に親身になって心配してもらったことに心から感謝している。

私の知り合いは「東京がどうの」と言うが、この地を

見た時、私の故郷を不思議と思い出した。海と緑など、本当によく似ている。また、私は魚が大好きなので、そういう意味でも幸せだった。残念ながら、春には一旦和歌山を離れることになったが、またここを訪れたい。その時には、WIN から貰ったものの何分の一かを、誰かに恩返ししていきたいと、心から願っている。



皆様ありがとう

スワリー ソイミー

(タイ)

私はタイのベッチャブーンから来ました。ガイと申します。昨年4月20日、日本に来て早いもので、もうすぐ一年が経とうとしています。そして今、日本にいた頃の事が走馬灯のように思い出されます。喜びと不安でいっぱいだった私を暖かく迎えて下さった WIN の皆様方、ホストファミリー、和歌山大学の皆様方、たくさんの方々に私は今心から感謝しています。

私は日本に来る前タイで日本語や日本の文化マナーなどを勉強して来ました。又日本の方々とどのようにして、付き合っていけばよいかなと思って、とても不安でした。でも、その不安は、一日一日と喜びや楽しみが変わって行き、私自身、自信も少しずつ出来てきました。

この一年間日本で勉強した事を生かし、タイに帰っても、もっと勉学に励みたいと思います。一年は私にとって短かったです。もっと日本の事を知りたいです。また二年後、日本に戻って来ます。このような素晴らしいチャンスに恵まれた私はとても幸せ者です。皆様本当にありがとうございました。

2000年度活動経過

- | | |
|----------|--|
| 4月 8日 | 新入生歓迎花見 (和歌山城) |
| 5月13日 | WINコンコード総会・交流会 |
| 8/26~27日 | サマーキャンプ 清水町 (海瀬様宅) |
| 9月23日 | 第1回留学生の故郷を語る集い
(モンゴル) |
| 11月12日 | 大学祭 模擬店協力 |
| 12月23日 | 忘年会 (ボーリング、カラオケ) |
| 1/1~3日 | お正月ホストファミリーのホームパーティ |
| 2/23~25日 | 会社見学とスキー旅行
名古屋でんきの科学館
ノリタケミュージアム
めいほうスキー場 |
| 3月 3日 | 第2回留学生の故郷を語る集い
(ハンガリー、ルーマニア) |
| 3月23日 | 卒業生を送る会 |
| 年間 | 住宅紹介・入居・転居の支援
生活用品の貸与
ホストファミリープログラム
生活情報提供、相談 |



新留学生紹介

大学院の部

・烏仁高娃 (オルンゴア) 中国
日本に来て、知らずのうちに2年間になった。この2年間私にとって大変な生活だった。今は日本の習慣に慣れて、言葉がわかるようになってから、これからの人生の道が広がったと思っている。私は幼児教育に興味を持っているから、自己の研究の夢を実現せずにいられない。美しい山や川など、自然の景観に恵まれ、日本より広くて緑ずくめの草原で馬に乗って歌を歌い自然の花を眺めながら、のんびり生活することをモンゴル人はこの上ない楽しみとしてきた。故郷は懐かしいものだ。

・Kawadoi Jenny Gail (ジェニー) ペルー
去年の10月5日にペルーから来ました。六ヶ月、三重大学で日本語を勉強しました。和歌山大学では教育学部の研究をしたいと思います。日本に来て困ったこと失敗したことがあります。例えば三重大学の食堂でおいしい食べ物を食べに行ったときです。でもその食べ物の名前は漢字で書いてありました。漢字を知らなかったで、その食べ物の名前を読むことが出来ませんでした。それで、食べたい食べ物の変わりに違う食べ物をもらいました。私は失敗したことや困ったことがたくさんありますが、日本で私は幸せな生活を送っています。

・Law Wan Yoke (ローワンヨーク) マレーシア
マレーシアのセランゴ州出身です。三重大学で半年日本語を勉強して4月から院生になり、和歌山大学へ来ました。私は経営学をずっと勉強したいので、今和歌山大学でその夢を実現できると思い、これからの授業がどんなに忙しくても、わくわくしています。和歌山市役所に標語で「夢いっぱい、愛いっぱい、花いっぱい」と書いてあります。私はこの標語が気に入っています。歩行者道にあるでこぼこした目の不自由な人の道とか、人は特にWINの人達がすごく親切にしてくれて「愛がいっぱい」という標語が当たっています。道路の中央分離帯で花がいっぱい植えていて、人々の

家の前も花がきれいに植えられています。私は自然に親しむことが大好きですから、花を見るとさわやかな気分になります。私は「夢、愛、花」いっぱいの和歌山で生活するのを楽しみにしています。

・Goh Chui Ling (ゴーチュイリン) マレーシア
私は半年前に日本語の研究生として三重大学で勉強しました。今は和歌山大学で経営学科の大学院生になりました。和歌山へ引っ越したばかりの時は、三重での生活が懐かしくて、三重の友達もこの町にいて寂しかった。ところが、2週間が過ぎて新しい生活に慣れながら、この町もどんどん気に入ってきました。

・呂林虎 (ロリンコ) 中国
中国の吉林省から日本に来てもう3年になりました。今年4月に和歌山大学大学院に入学して今は、和歌山大学国際交流会館に住んでいます。自然に恵まれた和歌山は、とてもきれいです。そして和歌山の人々も思いやり深くて親切です。こんな素晴らしい環境の中でいっしょうけんめいに頑張って、いい思い出をたくさんつくりたいです。これから、よろしくお願いします。

・金在哲 (キンザイテツ) 中国
中国の黒龍江から来ました。去年の7月大学を卒業し、10月に東京へ来て語学研修を続け、今年の4月に和歌山大学の経済研究科に入学しました。私が日本へ来て初めて迎える春ですが、和歌山の人々の親切さにもっと暖かく感じました。いつも耳にした花見もボランティアのお陰で体験できて本当にうれしかったです。これから始まる留学生生活は短い2年間ですが、この期間に専攻する分野の専門知識をきちんと身に付けながら、たくさんの友達とも付き合っ、充実した毎日を過ごそうと思っています。皆さんよろしくお願いします。

・楊丹ニ (ヨウタンニ) 中国
中国の大連から来日しました。日本の先進的な地域経営の実態と成功した地域策を学びたく、また中国の地域政策的成功経験を日本に紹介したいと、強く願って半年前日本にきました。これまで京都の龍谷大学の留学生別科で日本語と経済学を学んできました。和歌山

大学の大学院合格で私は、いよいよ研究一筋で勉強を続けることができると期待しています。また、留学生として日本の家庭、日本人に接して、もっとたくさんの日本らしさ、日本文化のスタイルについて知りたいです。有意義で内容の濃い留学生活は自分の人生の中でも貴い経験だと思います。この2年間、本から知識を得るだけでなく自分の能力を高め、視野を広くし、成長することが出来るよう勉強したいと思います。どうぞ、よろしくお願いします。

・ Odegov Egor (オデゴフ エゴール) ロシア
私は 23 才です。ロシアの雪に覆われたシベリアという地域から来ました。故郷はクラスノヤルスク市で 1997 年 10 月の月上旬に橋本総理大臣とエリツィン大統領の会談が行われました。私の趣味は、友達と付き合うことです。スポーツはあまりしませんが、テレビを見ながらロシアのチームと選手をひいきして応援しています。身体の調子をよくするため、毎朝友達と和歌山市の景色を見ながら、大学まで自転車で頑張っています。私は初めて一人暮らしをしているので、仕方なくだんだんロシア料理が得意になって来たようです。ボルシチとロシアのサラダを今まで何度も作りましたが、味は毎回違いました。でも友達は私の料理が好きようです。三重で知り合った友達と別れたことが寂しく思いますが、これから和歌山で友達ができるようになりたいです。よろしく。

学部生の部

・ Klein Kinga Judit (キングガ) ハンガリー
みなさん、こんにちは。私はハンガリーから半年前に来ました。はじめまして、どうぞよろしくお願いします。ここに来て和歌山大学に通っています。主に明治時代の大学を研究したいです。今、前期が始まってまた大学がにぎやかになりました。友達と会えるようになってとてもうれしいです。国へ帰ったら和歌山で過ごした一年の思い出を必ず大切にします。

・ Tischer Monika (ティシエルモーニカ) ハンガリー
皆さん、こんにちは。ティシエルは名字でモーニカは名前です。ハンガリー語で人の名前の順番は日本人と

一緒です。だけど異なっているところは、ハンガリー人はお互いを姓じゃなくて名前で呼びます。もうずいぶん昔から日本に留学するという夢をもっていて、去年 10 月にこの夢がかなった時は、言葉に言えないほど嬉しくて幸せでした。この一年間の大学生の生活を楽しみながら、日本の文化を知るようになりたい。友達と関西地方を旅行しました。高野山に紅葉狩り、大阪城の公園に梅を、和歌山城の桜を観賞しました。2 月の 3 日間のスキー旅行もとても楽しかった。今から日本と和歌山の夏を楽しみにしています。和歌山大学の教育学科で特に国文学と日本の民俗学を研究して日本語をよく話せるように頑張ります。

・ 楊 波 (ヤンボー) 中国
「僕の名前はヤンボー、君の名前はマーボー…」たくさんの日本人は毎日午後 5 時から放送されている天気予報の歌を知っているでしょう。私の名前もヤンボーです。日本に来てこの 2 年間にどんな偉いこともしなかったですが、この名前のお陰でみんなに知られる人物です。私の故郷は中国の瀋陽です。歴史が長い町で、中国には二つしかない故宮の一つがあります。最後の封建王朝「清」は瀋陽からです。ボーリングやビリヤードなどする時、是非呼んで下さい。福岡で 2 年間楽しかったですが、これからまた楽しみに！

・ 宮崎 アナリア 樹里 (ジュリ) パラグアイ
Hola Amigos!!

みなさん、初めまして。南米パラグアイ共和国から一年間和歌山大学経済学部で研究生としていろいろと勉強することになっています。私は 23 才です。パラグアイでは、アスンツオン国立大学法学部の 5 年生、そして最高裁判所での書記として頑張っているのです。こちらの大学でも日本の法律、法令関係、特に民法や日本国憲法を勉強していきたいと思っています。そして、日本で勉強しながら日本の文化をもっと知り、日本語をもっとクリアアップして、上手になって帰りたいと思っています。よろしくお願いします。







WINコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で、地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を充分に発揮しうる状況に至っていると思われます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

WINは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク（HAN Human Active Network）で結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上に「HAN」を構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、WINコンコードを設立するものです。

WINコンコード事務局

〒640-0103 和歌山市加太 2201-339

TEL073-459-3888 FAX073-459-3889

Homepage : <http://www.infonet.co.jp/Aso/win/indexj.htm>

E-mail : win@ns.infonet.co.jp